

# 相手を受け入れ、適切なコミュニケーションができる児童の育成

田辺 虎大  
児童生徒支援コース

## 1. 研究の目的

令和5年度文部科学省調査によれば、小中学校における不登校児童生徒数は増加傾向にあり、その要因の中で最も割合が高いものは「友人関係をめぐる問題」であった。友人関係の改善は、不登校の未然防止に向けた重要な課題であるといえる。

また、社会の多様化や人間関係の希薄化が進む中で、児童生徒が他者と適切に関わる機会は減少している。そのため、自分の意見を伝えるだけでなく、他者の感情や立場を尊重しながら相互理解を図るコミュニケーション能力の育成が求められている。

本研究では、アサーショントレーニングを通して児童の主張性を高め、互いを受け入れ合う学級づくりを目指す。具体的には、意図的・計画的・継続的な実践を通して、児童のコミュニケーション能力およびアサーションの向上を図り、不登校の未然防止につながる支援の在り方を検討することを目的とした。

## 2. 調査の概要

### (1) 対象

茨城県内の公立X小学校5年Y組30名（男子17名、女子13名）を対象とした。なお、事前・事後調査の計3回のいずれかで欠席した児童は分析対象から除外し、結果として全ての尺度において、24名を分析対象とした。

### (2) 調査時期

前期実習：2025年6月2日～6月30日 前期質問紙調査実施日 2025年6月9日 30日

後期実習：2025年10月20日～11月1日 後期質問紙調査実施日 2025年11月1日

### (3) 質問紙の構成

園田（2010）が使用した「さわやかさんスタイルチェックリスト」の中から「児童同士の関わり」に関する7項目を使用した。各項目については、当てはまるものに◎、2つに当てはまる、迷ってしまうものに2つ○を記入する。評価は（◎：2点、○：1点）とする。

### (4) 手立て

本研究では児童の効果的なコミュニケーション能力の獲得と、それに伴うアサーションの向上を促すための学級活動とショートトレーニングを前期実習と後期実習で実践した。授業実践では学級活動を通して、自分らしさを振り返り、効果的なコミュニケーション能力の獲得の重要性に気が付かせたうえで、アサーションを紹介し般化させていった。学級活動の実践は、前期実習で2時間（45分×2）、後期実習で2時間（45分×2）の計4時間行い、シ

ョートトレーニングは前期実習で20分行った。

### 3. 研究の結果と考察

アサーション尺度得点は、事前10.67点、事中11.33点、事後11.50点と緩やかな上昇を示した。事前・事後比較では有意傾向 ( $p < .10$ ) が認められ、継続的実践の効果が示唆された。一方、短期間の比較では有意差は認められなかった。

表1 事前・事後でのアサーション尺度得点の平均値と標準偏差とp値 (\* $p < .10$ )

	事前平均値(SD)	事後平均値(SD)	p値(片側)
アサーション(n=24)	10.67(2.94)	11.50(2.22)	0.06*

このことから、アサーションの定着には時間的蓄積と繰り返しの実践が必要だと示された。

自由記述では、「尊重することが大切」「状況によって笑顔を使い分ける」「目を見て話す」など、行動面だけでなく態度面への気付きが多く見られた。特に「認める」という語が自発的に用いられた点は、児童が学びを内面化していたことを示す。

また、事前得点が最も低かった児童が事後に最も伸びる結果となり、実生活場面でも配慮ある自己表現が確認された。一方で、得点が低下した児童も存在し、自己評価基準の変化や理解の深化が影響した可能性が考えられる。

以上により、本実践は量的・質的の両面から一定の効果を示したと考えられる。

### 4. 研究の成果と課題

本研究の成果は、アサーショントレーニングを意図的・計画的・継続的に実施することで、児童のコミュニケーション能力および適切な主張性が徐々に高まる可能性を示した点にある。特に、相手を尊重しながら自分の考えを伝えようとする姿勢が学級内に広がったことは重要である。

一方で、全児童に同様の変容をもたらすことの難しさや、尺度に表れにくい内面的変化の評価方法は課題として残った。また、実習期間が限られていたため、長期的効果の検証は十分ではない。

今後は、日常の学級経営と結び付けた長期的・体系的な支援プログラムの構築と、個別支援を含めた多面的評価の充実が求められる。

### 5. 引用文献

1. 園田雅代(2010). 子どものためのアサーション自己表現グループワーク:自分も相手も大切に作る学級づくり, 日本・精神技術研究所
2. 坪田吉巨・赤木和重・松浦均(2011). 小学校高学年における学級集団の形成過程-他者受容感を育てる子どもどうしの「支え合い」. 三重大学教育学部研究紀要. 自然科学・人文科学・社会科学・教育科学. 62, 235-256
3. 平木典木(2009). 改訂版アサーショントレーニング-さわやかな自己表現のために-, 金子書房
4. 渡部玲二郎・江幡綾子(2015). 児童のコミュニケーション能力を高めるための実践研究(1) - 小学校におけるアサーション・トレーニングの試み -, 茨城大学教育学部紀要(教育科学)64号, 353-370